

あなたの声を市政に届けます!

# 人の輪だより

「村上ひろしと市民ネットワーク」 会報2016年1月号  
熊本市議会議員 村上ひろし後援会



## 新春のお慶びを申し上げます!

村上ひろしと市民ネットワーク

会長 吉住 眞



新年明けましておめでとうございます。

昨年の政令市熊本の初市議選におきましては、皆様の沢山のご協力、ご支援、ご好意によりまして村上博は再当選することができました。誠に有り難く嬉しいことでした。改めて感謝と御礼を申し上げます。

雌伏4年（元後援会の我々は今回の選挙に出ることはすっかり諦めていましたが、村上本人は雌伏していたようです。）そして今、雄飛しました。更に水を得た魚のように議会、各種委員会、個人相談、勉強の為の視察などに動き回っています。12年間の市議経験もあり、今回、厚生委員長という役職にも就き、今まで以上の活躍が期待されます。

当選と同時に多くの相談者が訪れるのを見聞きすると、本当に村上博は熊本市民の為に必要な人間だったのだと、思い知ったこの頃です。

皆様、今後も村上博を市民の為に活用し、応援も宜しくお願い致します。

## 『村上ひろしがいないと困る』

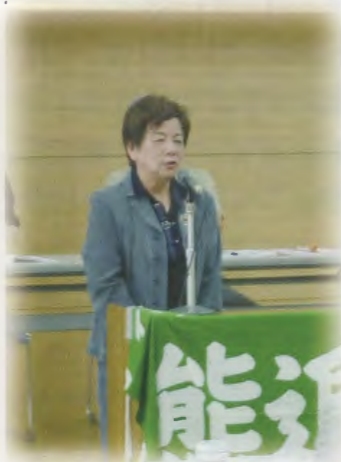
前 熊本市議会議員 東すみよ

明けましておめでとうございます。

2016年という年をいかがお過ごしでしょうか。どんなに辛いことや、苦しいことがあっても、新しい年を迎えた時「よし!今年がんばろう!」という気持ちを起こしてくれるから不思議です。しかし、去年はあまりにも日本の国の行く末が案じられるような事案が多く、歴史に残る悪政に不安が募り、悔しい思いをした年でもありました。

そんな中で一番の救いは、厳しいと言われながら、4月の選挙での「村上ひろし」さんの市議会復帰でした。本人の努力はもちろんですが、「やはり、村上ひろしさんがいないと困る・・・」という支持して下さる多くの皆さんの後押しがあつての快挙でした。

以降、確実に皆さんの期待に応えるための歩みを進めています。今の政治状況は決して私たちにとって順風とは言えませんが、これから少しずつでも変えていくことはできます。その原動力となる「村上ひろし」議員を息長く私たちは支援していきましょう。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



# 『熊本市民の声を市政に!』

## 市議会活動報告

### 1. 激動の2015年!

村上博

激動の1年は、東すみよさんに「このままで終わってはいけない、もう一度議会に帰らないと!」と強く背中を押された2014年2月から動き始め、2015年の正月気分を味わう間もなく、団体回りや集会参加、辻立ちなどなど、様々な活動で濃密な日々が過ぎ、4月3日の告示日。アツという間の選挙期間でした。4月12日深夜、「もう大丈夫、当選」との吉住会長の判断で万歳の声が響き渡りましたが、前回の出来事（落選）もあり、自分の中で確信できるまでに時間がかかりました。

2015年5月1日から正式な4期目の任期の開始。どっと増えた市民相談、期待の大きさを実感しながら解決へ向け、同時進行中です。

個人視察で6月に、医療的ケアを必要とする子どもたちが地域の学校へ通っている実態を学ぶため、藤沢市、立川市、また熊本市外の菊池市や益城町、菊陽町を訪問しました。直接、現場を見ること、直接、話を聞くことで新たな気づきがたくさんありました。

現場に行く、見る、聞くことの重要性を改めて知り、熊本市内の全ての小中学校の訪問も実行中です。また、岩田県議や福永市議、上田市議、猿渡菊池市議たちと3回のスクールソーシャルワーカー（SSW）の勉強会を実施しました。政令市議員研修での全国各地の議員たちとの意見交換、情報交換も今後の活動に生かします。

私は、市民連合という会派に所属し、議会では、赤ちゃん、子ども、障害者、お年寄りまで幅広い福祉分野である『厚生委員会』の委員長に就任、行政視察では7月に横浜市、仙台市を訪問、先進事例を学びました。

また、7月には、障害をもった当事者議員を中心とした「障害者の政治参加と自立をすすめるネットワーク」の長崎市での全国大会に参加、仲間たちと長崎市駅前広場で、「安保関連法案」に反対の街頭活動も行いました。

私の4期目は、即戦力としての期待が大きく、待たなしの活動です。1期目の新人議員時代とは周囲の見る目も期待値も全く違います。選挙期間中に「皆さんの声を議会に届け、施策に反映させます」と有権者に訴え、約束したことの実現が私のやりがいであり、与えられた使命です。

2016年も動き回ります。新年が多くの皆様にとって安穏で健康な一年になることを心からお祈りいたします。

### 2. 久しぶりのあの緊張感!

4年ぶりに市政に復帰して最初の一般質問を2015年12月議会で行いました。

これまで質問者の持ち時間は90分でしたが、2015年の改選から、質問、答弁含めて2時間以内と規定が変わっていました。4月からの議員活動では、



これまでの経験を生かし、それほど困ることはなかったのですが、この一般質問には戸惑いました。

9人の質問者の中では一番最後だった為、質問項目が重複しないように、13項目も準備していましたが、それは問題ありませんでした。しかし、時間配分では答弁時間の予測がつかず、丁寧(?)な答弁に残り時間がなくなり焦りました。その為、2つの質問項目については、次回に譲る、と途中で宣言せざるを得なくなりました。また、質問中に準備した大切な原稿がどうしても一枚見当たらず、大変焦りましたが、即座に気持ちを切り替えて、原稿なしで質問をつなぎ、何とか乗り切ることができました。

色々ありましたが、大西市長との初の論戦は別の意味でも緊張感一杯となりました。

### 3. 密着、学校現場の1日

多忙化が指摘されて久しい学校現場、どんなふうに忙しいのか知りたくなりました。そこで11月のある日、中学校1校、小学校2校に3日間、朝から夜まで12時間張り付いてみました。

熊本は全国でも珍しい学校での部活動が盛んな地域です。生徒数約千人、大規模校の出水中学校の部活動参加率は文化部も含め80%。朝の練習、「朝練」を見て午後の風景ではないか、と目まいを覚えました。運動場一杯のハードな練習に正直驚きました。顧問の先生たちは当然、朝練開始前の7時には出勤していました。

午後の部活動では朝練以上に練習をしている生徒たち。野球部とサッカー部とラグビー部が隣り合わせて練習をしていました。「ケガをしないといいが」と思った矢先に5、6人の教師たちが運動場の一角に集まっています。練習中に打撲をした生徒がいたのです。教師が病院に同行し、保護者への連絡、病院とのやり取りなど、私は現場に立ち会い緊張しましたが、教師たちは「日常的な出来事です」と動揺した様子はまったくありませんでした。

午後6時、部活を終えた教師たちが職員室に帰ってくるのと入れ違いに、午後7時、PTAや地域の人たちと校区の防犯パトロールに出かけ、気になる生徒の自宅訪問、その後に試験の採点や翌日の教材の準備などを始める教師たち。午後9時過ぎは当たり前、学校行事が重なれば11時に、下手すると午前様も珍しくないとのこと。なんという長時間労働。「子どもが好きでないとやってられません」との言葉、疲労困憊かと思いきや表情は元気そのもの。こんな長時間勤務が、ずっと毎日続くのだ。大いなる違和感を覚えました。「子どもたちのために!」と必死に頑張っておられる先生方に、もうこれ以上、「がんばってください」といえない過重労働の実態があると感じました。

6人に1人の子どもの貧困など、社会問題が様々な形での厳しい状況に子どもたちは置かれています。いち早く子どもたちのSOSに気付かなければならない教師たちだが、現状はいっぱいいっぱい。

今回の一般質問では、学校訪問で感じたこと、見えてきたことを取り上げましたが、今後も多くの現場を見て、直接話を聞いて議会に伝え、施策に反映させていきたいと思えます。

今年もご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



## 村上さんに期待します 一緒にがんばりましょう

### 『村上ひろしに期待すること』

ヒューマンネットワーク熊本 植田洋平

私が村上さんに初めてお会いしたのは6年前の議員インターンシップの時でした。手話で自己紹介をされたときに「どうしよう、自分は手話が分からない。」と、とても慌てたことを鮮明に覚えています。手話をなぜできるのか尋ねると、「手話を利用していらっしゃる方に少しでも安心感を持ってもらえればと思い勉強した。」と話されました。車いすの議員ということで、肢体不自由関係を中心に活動しているのではという先入観が見事に砕かれ、全ての市民に寄り添って活動をされていることを知りました。



その後の選挙で残念な結果となり、村上さんは4年間、市議会を離れました。市議会を離れた後も市民のために活動を続けていたことを私はずっと見ていました。議員ではないため、何の報酬もありません。むしろ活動すればするほど自費でお金を払わなければならないくらいです。それでも、何か問題が起こると率先して活動をされていました。お金のためではなく、本気で市民のことを考えているということを実行で教えてくださいました。

しかし、議員ではなく一市民の声となってしまう、どんなに声をあげても、どんなに思いがあっても影響力が限られており、そのたびにもどかしさを感じられていたのでは、と思います。

昨年、全盲の青年の受験を熊本市が拒否した事件では、私も村上さんと一緒になって市に問題を訴えましたが、結果としてその青年は一年を棒に振る事になりました。その時も、「自分が議員だったら・・・申し訳ない」と漏らしました

4年間の長い休みを抜けて、今までやりたくてもできなかったことが山積みになっていると思います。今までの市民のことを一番考える姿勢のまま、これから熊本市を全ての人にとって暮らしやすくするために活動してもらえると信じています。

### 『訪問介護の状況の改善を!』

熊本市居宅介護・

重度訪問介護事業者ネットワーク代表 小出照幸

皆さんは、訪問介護員（ホームヘルパー）と聞いて、どのようなイメージが湧きますか？

3K（きつい・汚い・危険）+給与が安い・・・と云うマイナスイメージですか？

ここ数年マスコミ等を通じて、このマイナスイメージが定着した様に思います。実際の現場を通して見るとマイナスイメージを全面否定はしませんが、マイナスイメージのみで訪問介護員は、働いている訳ではありません。

訪問介護員が行う業務を訪問介護と云いますが、訪問介護の目的は「家で住み続けたいという利用者が望む、その人らしい生活の実現に向けての援助が基本にあり、障害があっても能力に応じた自立をめざし、生活の質を高めて自己実現を図って行くこと」です。

訪問介護員はこの目的の下、サービスを提供し、時には笑い・時には悲しみ・時には怒り、利用者と共に喜怒哀楽を共有しています。また介護は協働作業であり、利用者や訪問介護員との信頼関係が必要であり、介護が上手く行ったときは、充実感を覚えます。訪問介護は、やりがいのある仕事でもあります。

今、訪問介護員の人材が不足しています。その結果、訪問介護事業所の事業運営が厳しい状況にあります。この状況を何とか改善しようと今回、村上議員の仲介で熊本市の関係者と意見交換の機会が持てました。今後も継続して改善のための具体的な施策と一緒に検討することの確認が取れました。人材不足改善のために、仲間と共に頑張っていきたいと思っています。



### 『市議会を傍聴して』

熊本市退教協 藤本直子

12月7日、私たちは、村上さんの復帰後はじめての一般質問の傍聴にまいりました。村上さんは、とてもいいねいに実際に体験した学校の状況に基づいて質問をされました。教職員の多忙化が明らかにされ早急な解消が求められます。フッ化物洗口については、よく情報収集され、問題点もはっきりと話されました。最後にきっぱりと「私は学校でのフッ化物洗口には反対です。」と言われ、私は傍聴席で、大きく頷きました。

さて、朝早くから夜遅くまで勤務し、休憩時間もなく、昼

食もゆっくり取れず、トイレに行く時間もない。休日も部活動や残った仕事のために出勤する。8年前まで私自身も体験していたことです。いつ病気になってもおかしくない状況にまで追い詰められています。

私が辞める前までは、フッ化物洗口は、教育にそぐわないと教育委員会も言っていたので私は絶対に学校では実施されないと考えていました。なのになぜ???最近になって導入されるようになったのか本当の理由を聞きたいと思います。県下の学校では強制的に実施されている現状もあり、大変な予算が使われています。それもすべて税金です。もっと学校では緊急に予算の必要な課題もあるのに。

しかも、教職員の多忙な中、何か事故でも起きたらどうするのでしょうか。学校でのフッ化物洗口を必要と考えている人たち、一人ひとりが責任を取る覚悟はあるのですか。それに、安全性に少しでも疑問があるものを成長期にある子どもたちに公教育の場で使用させないでほしいと強く思います。

最後に今一度、フッ化物洗口については、絶対に絶対に学校で実施しないでほしいと強く強く訴えます。

## 『格差社会について』

NPO法人 でんでん虫の会 船本満幸

熊本で野宿生活者の方々へのおにぎり配りが始まりしたのは平成15年(2003年)12月20日(土)でした。沢山のボランティアの方、行政の奉仕、応援を頂き、200名以上の方がアパートに入れました。しかし、病気や自死で亡くなる方が出られ、2ヶ月後に発見という悲しい出来事もありまして…心が痛みました。リーマンショックによる失業、その他、いろいろな事情から厳しい環境下におかれるようになったと思います。

藤田孝典さんの「下流老人」の本にありますように、このままではこれからもっと増えていく流れは避けられないのではないのでしょうか。

相談する人がいない問題や、支え合うことはボランティアで少しはお手伝いできると思いますが、収入が低いなどの問題は大きく深く、国の支援がさらに求められることと思います。本当に豊かな社会とは社会的弱者の方が安心して暮らせる社会だと思います。

これから格差社会に進んでいくように思えます社会情勢の中で大切なことは、隣人を大切にしよう愛の心だと思います。村上博さんのお働きは格差社会の中で光であり、無くてはならない大切なことと思います。どうぞ、人を大事にし合う良き社会のために、私たちが共に働き共に歩んでまいりたいとお祈り申し上げます。

## 『村上議員の再登場に拍手』

くまもと9条の会 野田邦治

私は4月に行われた熊本市議会選挙で村上選挙に関わり、見聞し、有権者の反応、候補者の動きを見てきました。その感想を書かせていただきます。

村上さんは連呼を止め、政策中心の辻説法をやり通された(日に平均15カ所以上で15分の辻説法)。住宅地や団地、スーパー店前、公園付近を演説の場に選び、市民に語りかけた。有権者に聞きやすい配慮をし、選挙カーは交通に迷惑をかける配慮は好感をもたれたと思う。団地の窓から手を振る有権者、買い物袋を手に聞き入る市民、ベンチに座り傾く市民、後半になると反応はウナギ上りだった。

「連呼は喧しいばかり、村上さんの訴えはよくわかる」と

ガンバレの電話が鳴り響く事務所。又、自らの意思で参加してくれた支援者の皆さんの奮闘は他の事務所にはない特徴だった。

支援する人の思いと村上さんの姿勢が本当に一致していた。「医療的ケアを必要とする子どもたちの豊かな学校生活を願う親の会(虹色の会)」

の両親たちが選挙カーのアナウンサーを引き受けてくれたこと、学校が休みの時は事務所に子どもを預け、頑張る姿に感動を覚えた。居宅介護事業所ネットの皆さんは、高齢化社会で重要な事業であるにもかかわらず、経営は厳しく、ヘルパー不足はただ事ではなく、政治を通しての改善を強く求める力は真剣で力強いものだった。また、障害を持つ方々からの支援は、家族を巻き込んで拡がり、多くの人々の共感を得ていた。皆さんそれぞれに自分の出来るお手伝いを毎日献身的に協力していただいた。余儀なく野宿生活を経験された方々とその支援団体の支援は熱く温かいものだった。

自分の意思で支援する方々は、自分の置かれた環境を少しでも改善したい、良くしたいと思う気持ちを行動で示してくれていた。村上さんは日頃から私たちの問題を本気で取り組んでくれたし、その誠実さ、真剣さを物語ってくれていた。弱い立場の人々に寄り添い、社会の一員として自立し生き続けるための環境整備に奮闘する村上議員の再登場に心から拍手を送りたい。



# 議員インターンシップを経験して!

## 『心に残った車いす街中体験』

熊本学園大学 社会福祉学部2年  
松永 和 (まつなが・いずみ)

私が2か月という期間の中で心に強く残っている体験は「車いす街中体験」でした。熊本市内を3時間車いすで散策し、いつもと違う立場になったらどうなるかを考えることがねらいで、歩く側と車いすに乗る側では大きな感覚の差があることに気づかされました。それらを自ら感じ取れる体験はなかなかできないことだと思いました。インターンシップを終え、新たなスタートラインに立ちます。やりたいことを見失わないようこれから頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

(一般質問を傍聴して)

村上さん、一般質問お疲れさまでした。インターンシップ活動の中で学んだことが多く盛り込まれていて、とても興味深かったこと、何より何度も「議員インターンシップ」とおっしゃって私たちの存在について触れていただいたこと、うれしかったです。

## 『印象的だったバリアフリーチェック』

熊本学園大学 社会福祉学部1年  
平里 友紀 (ひらさと・ゆき)

村上議員との活動の中でも特に印象的だったのが、多目的トイレのバリアフリーチェックです。市内の多目的トイレなど8ヵ所を視察し、それぞれの場所においてバリアフリーとしてうまく機能しているかを、これまで視察した箇所と比較しながら気づいていくという活動を行ってきました。これにより、結論として「バリアフリーに100点はない」ということが分かりました。設計者が常により良いものを追求し続けることにより、バリアフリーデザインは向上していくのだと、この視察を通じて自分の目で確かめて気づくことができました。

(一般質問を傍聴して)

村上さん、本当にお疲れさまでした。久々にお顔を拝見で



きてうれしかったです。質問の内容も自分の学科や、インターンの活動に大きく絡んだ内容ばかりで大変興味深かったし、改めてまた学びを深めていきたいと思いました。貴重な時間になりました。

## 『当事者の立場から考える大切さ』

熊本学園大学 社会福祉学部1年  
瀬形 純 (せがた・じゅん)

私はこの2ヶ月間、村上議員のもとで多くの経験をさせていただき、多くのことを吸収しました。中でも印象に残っているのは、学園大でのバリアフリーチェックです。初めに村上議員の学生時代の話をお聞きし、それからバリアフリーチェックを行いました。普段自分たちが通っている大学を改めて見直してみても、学園大がバリアフリーに力を入れていることが分かりました。今回の活動を通して当事者の立場から物事を考える大切さを学びました。

(一般質問を傍聴して)

村上さん、12月に一般質問があると聞いてからずっと楽しみにしていました。インターンシップで学んだこと、興味あるものばかりでした。私も夏に体験したことが話の中に何度も出てきたこと、とても嬉しかったです。本当にお疲れさまでした。

※ 熊本学園大学の他にも、九州ルーテル学院大学、崇城大学、熊本大学の学生たちが、村上事務所のインターンシップ研修に参加しました。今年も若者たちの政治への関心を広げるために協力してまいります。



## 村上ひろし活動日誌

(2015年10月～12月)

- 10月18日 山都町行政視察  
 10月24日 岩田智子後援会第1回総会  
 10月30～31日 社民党地方議員九州ブロック  
 研修会(鹿児島)  
 11月2日 桜木小学校人権教育研修会 講師  
 11月5日 熊本市立出水中学校一日視察  
 11月6～7日 日政連議員教育政策意見交換会(東京)



- 11月8日 「障害者の自立と政治参加をすすめる  
 ネットワーク」九州ブロック研修会(熊本)



- 11月9～14日 崇城大学インターンシップ  
 11月16日 熊本市立託麻東小学校一日視察  
 11月17日 熊本市立慶徳小学校一日視察  
 11月21日 村上ひろしと市政を語る集い  
 11月27日 熊本市議会第4定例会(12月議会)開会  
 12月5日 熊本市教組母と女性教職員の会  
 12月7日 熊本市議会一般質問  
 12月11日 村上ひろし後援会事務局会議  
 12月17日 熊本市議会第4定例会(12月議会)開会  
 市民連合による市議会街頭報告会  
 (ビブレス広場)



- 12月18日 事業者ネット意見交換会  
 (行政・事業者ネットワーク参加)

## 今後の行事予定

(2016年1月～7月)

- 1月14～16日 「障害者の自立と政治参加をすすめる  
 ネットワーク」全国行動(東京)  
 当日の予定  
 14日JALとの意見交換会  
 15日全国菓子工業組合との意見交換会  
 15日国会行動(文部科学省)  
 16日国会行動(厚生労働省)



- 2月1～2日 民主党地方自治体議員九州ブロック  
 研修会(宮崎)  
 2月3～5日 熊本市議会厚生委員会行政視察  
 (横浜、川崎、松戸)

- 2月6日 村上ひろしと市民ネットワーク  
 後援会総会(教育会館5Fホール)



- 2月22日 熊本市議会第1定例会(3月議会)開会  
 3月24日 熊本市議会第1定例会(3月議会)閉会  
 4月中旬 村上ひろしと市政を語る会  
 6月4～5日 DPI日本会議全国大会 in 熊本  
 7月8～10日 「障害者の自立と政治参加をすすめる  
 ネットワーク」全国大会 in 豊中

\*来夏に、参議院選挙が予定されています!  
 熊本選挙区は、「阿部広美さん」、  
 比例区は、「なたにや正義さん」の当選に向けて  
 がんばりましょう!



子どもたちを再び  
 戦場に送らないために!

# ひろしの視点



「とてもうれしいお便りをいただきました。  
ありがとうございます！」

## 前略

「村上ひろし議会だより復帰第1号」をお送り下さりありがとうございました。

活動の様子がよく分かり、市議会に出させていただいてよかったと、私は、山都町で校区外ですが喜んでいきます。地方議会で安保法のことを取り上げて下さったことは、特にうれしく読みました。4年間で小中学校現場をまわられる計画、大変だと思いますが、教育問題は、国の将来にかかわること。是非お願いいたします。

「車いす視点の社会はすべての人にやさしくなります」のキャッチフレーズのもと、お身体お大切に御活躍下さることを祈っています。

草々

◇このお便りに代表されるように、皆様から心温まる有り難いメッセージをたくさんいただいています。本当にありがとうございます。このお言葉をエネルギーにして、皆さんのために、今年もがんばってまいります。

## ☆「3回のフライング」

◇一般質問の時の恥ずかしい(?)お話。4年ぶりの一般質問、心を落ち着かせるため他の議員より20分ほど先に議場に入りました。開会時間が迫り次々に議員たちが入ってきます。いよいよ出番の時刻。

本来ならば、まず議長が「ただいまより本日の会議を開きます。日程第一、一般質問を行います。村上博議員の発言を許します」と言われてから手を上げ「議長～、25番」と発言し、議長から「村上博議員」と指名されて演壇に向かうのです。

◇ところが、議長が「一般質問を行います」と言った時点で、おもいきり手を上げ、しかも議場内に響け!とばかりに大声で“ギチョ～、25バン～”と叫んでしまいました。その瞬間、議場内から「フライング」のヤジ。その後、「村上博議員の発言を許します」と議長の声。慌てて、「ギチョ～、25バン～」とやり直して演壇へ。張りつめていた議場の雰囲気が一瞬にして和みました。

私のフライングはなんと、その後も2回、計3回も続きました。

◇次回の一般質問は9月の予定です。今度は、はやる気持ちを抑えて、落ち着いてがんばります!



## 編集後記

昨年は、大激戦の中央区選挙を皆様の総力で再選させていただき、そのご期待を裏切ることがないように、精一杯日々の議会活動に取り組んでまいりました。12月には、年に一度の一般質問の機会を得て、安保法や教育、福祉、環境の問題を中心に、市長や執行部を追求し多くの成果を得ることができました。今年も、ご支援いただいている皆様の声を市政に届けるために全力で取り組んでまいります。これからも、皆様のご期待を心の糧として、「車いすの視点を生かし、すべての人にやさしい熊本」をめざします。今後とも、ご支援ご協力を切にお願いします。最後に、編集にご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。